

(電子メール施行)
農技第1272号
平成30年8月16日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

平成30年度病虫害発生予報第4号を発表します。

平成30年度病虫害発生予報 第4号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(穂いもち)	やや少	やや少
	紋枯病	平年並	やや少
	細菌性病害(もみ枯細菌性病・内穎褐変病)	平年並	—
	ヒメトビウンカ	平年並	やや少
	セジロウンカ	やや少	やや少
	トビイロウンカ	平年並	やや少
	ツマグロヨコバイ	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	平年並	やや少
	イネツトムシ	やや少	やや少
	コブノメイガ	やや少	少
ダイズ	立枯性病害	平年並	やや少
	べと病	平年並	やや少
	葉焼病	やや少	少
	ハダニ類	平年並	やや少
	吸実性カメムシ類	平年並	やや少
	ハスモンヨトウ	平年並	少
ナシ	黒斑病	平年並	平年並
野菜共通	ハイマダラノメイガ	やや多	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	平年並

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(8月18日から9月17日までの天候見通し)

平成30年8月16日
大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

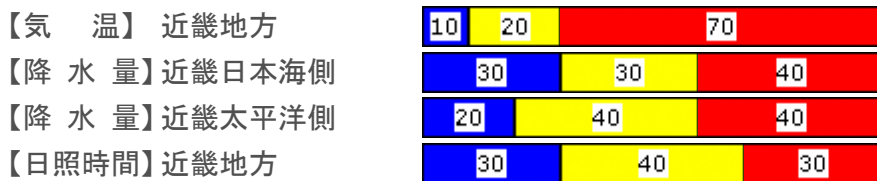
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

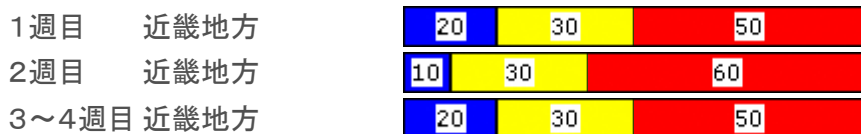
週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 8月18日(土)～ 9月17日(月)
1週目 : 8月18日(土)～ 8月24日(金)
2週目 : 8月25日(土)～ 8月31日(金)
3～4週目 : 9月 1日(土)～ 9月14日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】(穂いもち)

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の予察ほ場では発病は確認していないが、現地調査では、発病ほ場率6.9%(昨年度13.5%)とやや少ない発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されており、本病の発生を助長する要因は少ない。穂いもちへの移行は少ないと考えられ、今後はやや少ない発生で推移すると考えられる。

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の予察ほ場では発生株率4.0%(平年値9.6%)、現地調査では発病ほ場率3.3%(前年度10%)とやや少ない発生が確認されている。

イ 今後、気温が高く推移すると予想されていることから、本病のイネ株内での垂直進展が進み、平年並に発生すると予想される。

3 【細菌性病害】(もみ枯細菌病・内穎褐変病)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 本病の感染時期は主に開花期頃で、この時期に高温(日最高温度30℃以上)で降雨があると発病を助長する。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されており、平年並の発生が予想される。

4 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 7月下旬の予察ほ場では、すくい取り調査で成虫3頭/10回振(平年値5.3頭)とやや少なかった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の増殖好適条件となるため密度増加が進むと考えられる。

5 【セジロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 7月以降の予察ほ場では発生が確認されていないが、現地調査では発生ほ場率11.0%とやや少なかった。

イ 本種の生態的な特徴として、水稻栽培後期における顕著な増殖はみられないと考えられる。

6 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の予察ほ場では発生が確認されていないが、現地調査では発生ほ場率3.3%(前年値2.2%)とやや少なかった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の増殖にとって好適な条件であると考えられる。今後発生ほ場が増える可能性があるほか、既に発生が確認されているほ場においては、坪枯などの被害につながるおそれがあるので注意する。

7 【ツマグロヨコバイ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の予察ほ場では、すくい取り調査で成虫15頭/10回振(平年値27.3頭)とやや少なかった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の密度増加が進むと考えられる。

8 【斑点米カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 予察ほ場では発生が確認されていないが、加西市の予察灯では、7月1半旬～7月6半旬の合計誘殺数はアカスジカスミカメは294.8頭(平年値573.5頭)、アカヒゲホソミドリカスミカメは33.0頭(平年値146.6頭)とやや少なかった。今後、イネの生育に伴いこれらカメムシ類がほ場へ飛来すると懸念される。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の増殖に好適な気象条件が続くと考えられる。

ウ 斑点米カメムシ類は、畦畔、水田内のイネ科雑草を好んで生息するので雑草管理を徹底する。ただし、出穂直前または出穂後に畦畔雑草を刈り取ると、かえって水田内にカメムシを追い込むことになるため、出穂2週間前までに刈るるように注意する。

9 【イネツトムシ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の予察ほ場では発生が確認されていないが、現地調査では発生ほ場率1.1%(前年値1.2%)とやや少なかった。

イ 今後はイネの成長に伴い食害適期を過ぎるため、今後顕著な発生は見られないと考えられる。

10 【コブノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 県下3カ所に設置している予察灯への飛来、および現地調査での発生はまだ確認されていない。
- イ 今後、本年の飛来量は少なく、今後顕著な発生は見られないと考えられる。

ダイズ

1 【立枯性病害】（茎疫病、黒根腐病）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 7月下旬の予察ほ場では発病は認めていないが、現地調査では発生ほ場率7.5%(前年値9.5%)とやや少なかった。
- イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されており、本病は平年並に発生すると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- 立枯性病害は排水不良が発病を助長する。畝間灌水を行う場合は、停滞水とならないように排水対策等のほ場管理に努める。

2 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 7月下旬の予察ほ場では発病は確認されていないが、現地調査では発生ほ場率10.0%(前年値4.8%)と一部で発病が多い地域があった。
- イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されており、本病は平年並に発生すると考えられる。

3 【葉焼病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 7月下旬の予察ほ場および現地調査では発病は認めていない。
- イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されており、本病は高温性の病害であるため、今後発病が予想され、やや少ない発生で推移すると考えられる。

4 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 7月下旬の予察ほ場調査では5頭/10株の発生が認められたが、8月上旬では認められなかった。
- イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くため、本種の発生が助長されると考えられる。

5 【吸実性カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の予察ほ場ではアオクサカメムシ、ホソヘリカメムシは認めていないが、マルカメムシの発生を認めている。また、現地調査ではこれら吸実性カメムシ類の発生ほ場率が5.0%とやや少なかった。
イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、着莢期以降に発生が増加すると考えられる。

6 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の予察ほ場および現地調査では、幼虫および白変葉の発生は認められていない。
イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。また、生態的には、今後密度増加期を迎えることから、ダイズにおいて幼虫または白変葉の発生がみられるようになることが予想される。

ナシ

1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 場内調査および現地調査では、7月下旬の短果枝の発病葉率5.6%(3ヶ年平均値3.7%)と平年並の発生であった。
イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されており、本病は平年並の発生で推移すると考えられる。

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】 (アブラナ科野菜)

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 誘致植物のクレオメの調査では、8月第2週の幼虫寄生シュート(花枝)率が8%と平年より密度増加時期がやや遅いものの、8月に入ってから増加傾向がみられている。
イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。今後栽培する野菜類(アブラナ科)では、被害に注意する。

- (3) 防除上の留意点

ア 本種は特異的にアブラナ科野菜を加害する。
イ 幼虫が生長点を加害するため被害が大きく、被害を確認してからの防除では

手遅れとなる。本種の発生が懸念される場合は、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針

(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップでの誘殺数は、加西市では7月6半旬に56頭(平年値76頭)、南あわじ市では6.4頭(平年値4.8頭)と平年並であった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並〜少ないと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くため、秋作の野菜類では注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

イ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針

(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 前年多発した淡路地域において、実施しているフェロモントラップ調査では、7月6半旬に平均誘殺数90.4頭、前年値95.9頭と前年並の誘殺がみられている。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。生態的には今後密度増加期を迎えることから、栽培する野菜において幼虫の発生がみられることが予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、育苗中及び定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針

(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

※シロイチモジヨトウ等についての詳細は、近日中に発表予定の防除情報第3号を参照のこと。

果樹共通

1 【カメムシ類】

- (1) 予報の内容
- (2) 予報の根拠

発生量：やや多

ア カメムシ類は、園地への飛来が多い年(表年)と少ない年(裏年)を隔年で繰り返す傾向があり、本年は表年に該当する。朝来市のフェロモントラップ調査では、7月3半旬～8月1半旬のチャバネアオカメムシの合計誘殺数は43.4頭と裏年である前年の29.3頭より多かった。

イ 今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、チャバネアオカメムシのほか、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの活動も盛んになると考えられるので、果実の被害に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 果樹園での飛来状況に注意し、飛来を確認したら直ちに薬剤散布を行なう。有袋栽培であっても、果実が肥大して袋に接すると加害されやすくなるため、的確な薬剤散布を行なう。

イ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。
病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)